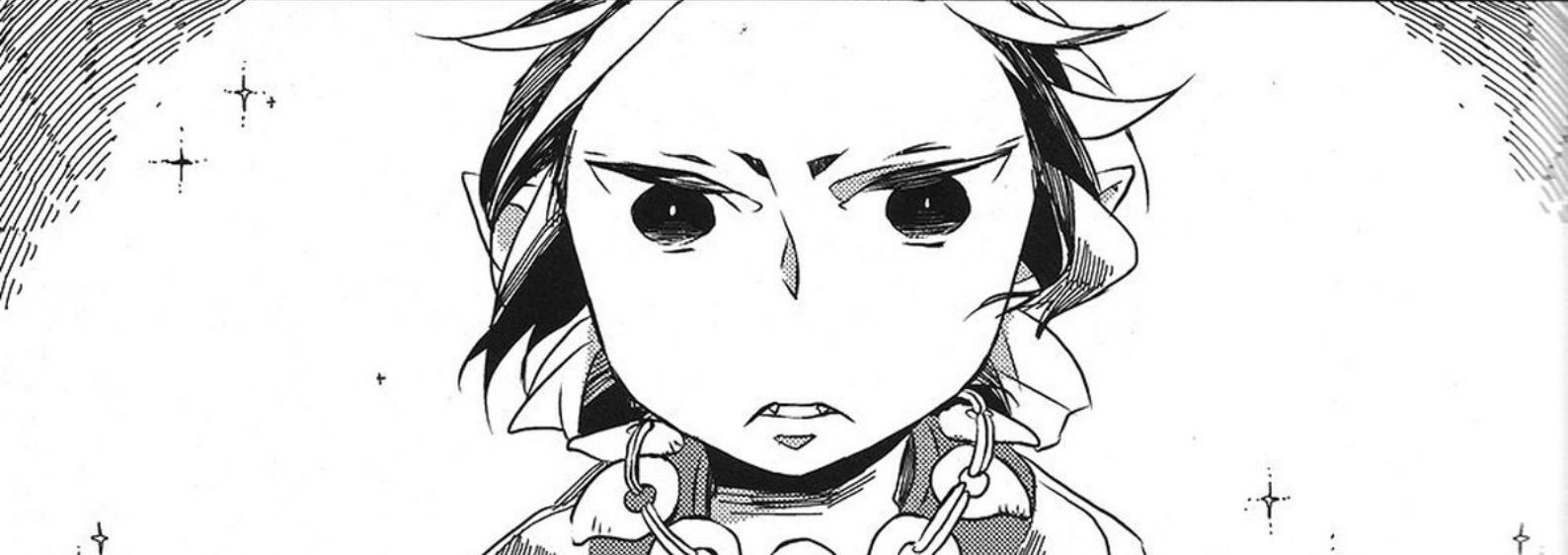


はたして
どちらが
亡者だったのか



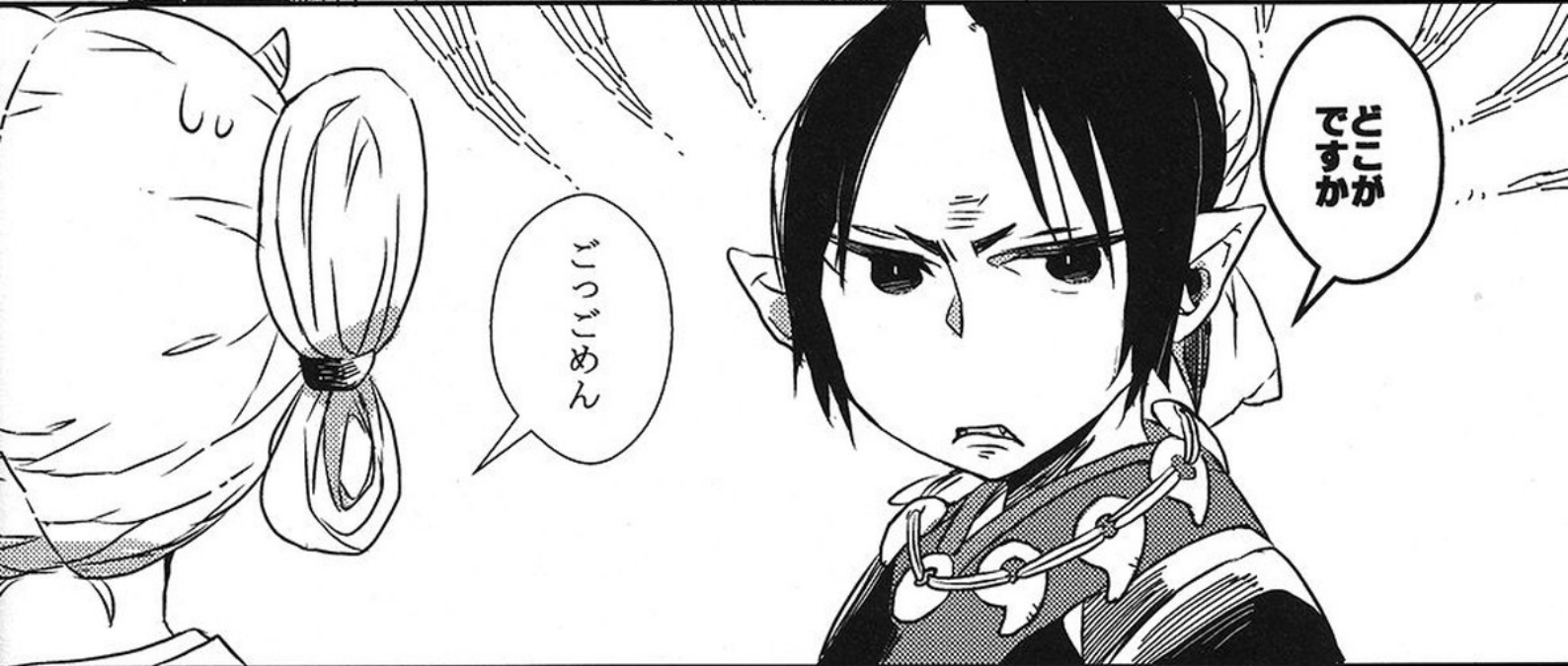
成人
指定







なあなあ
あの兄ちゃん
ちよつとお前に
似てたな



どこか
ですか

いっめん



こんな常闇とは
無縁の生物

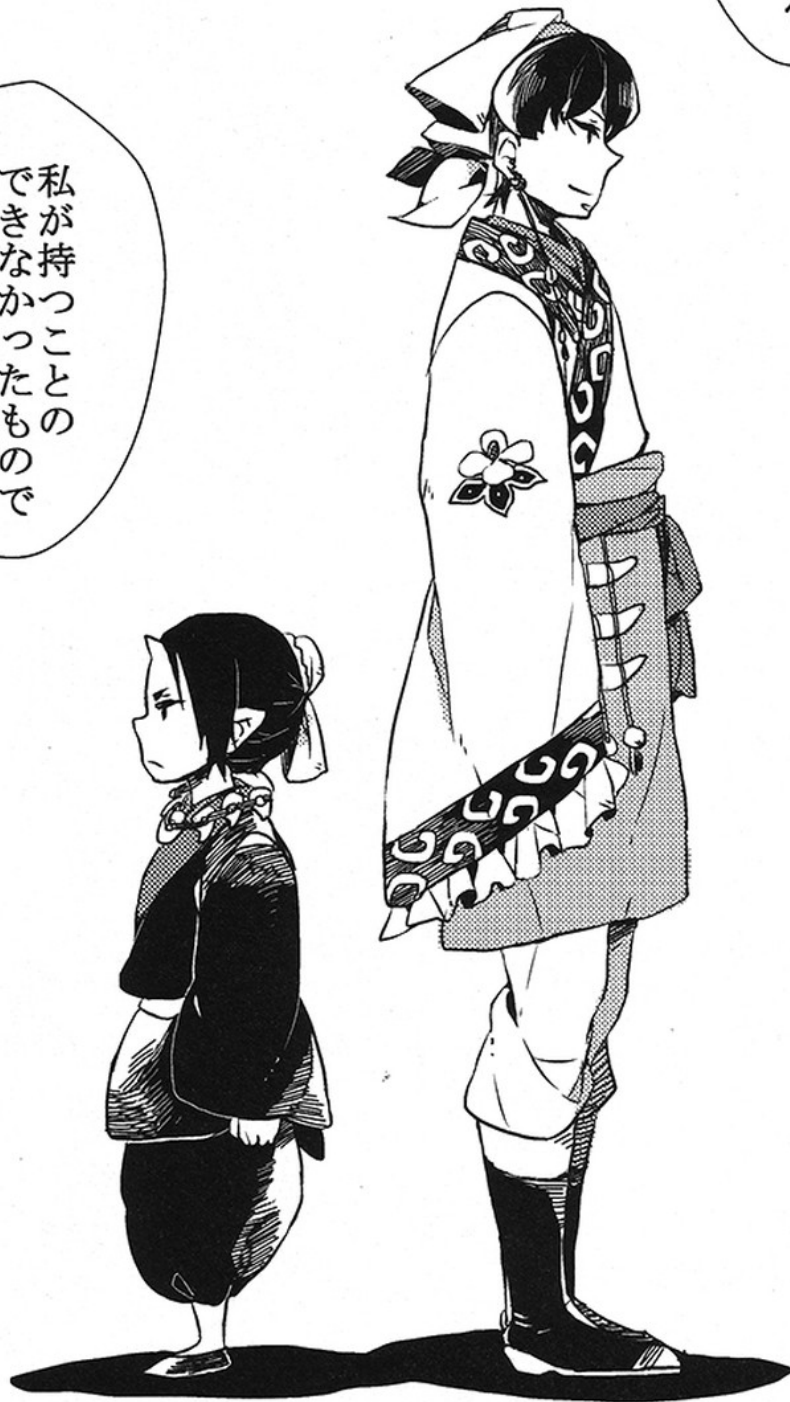
常に笑顔を
たたえて

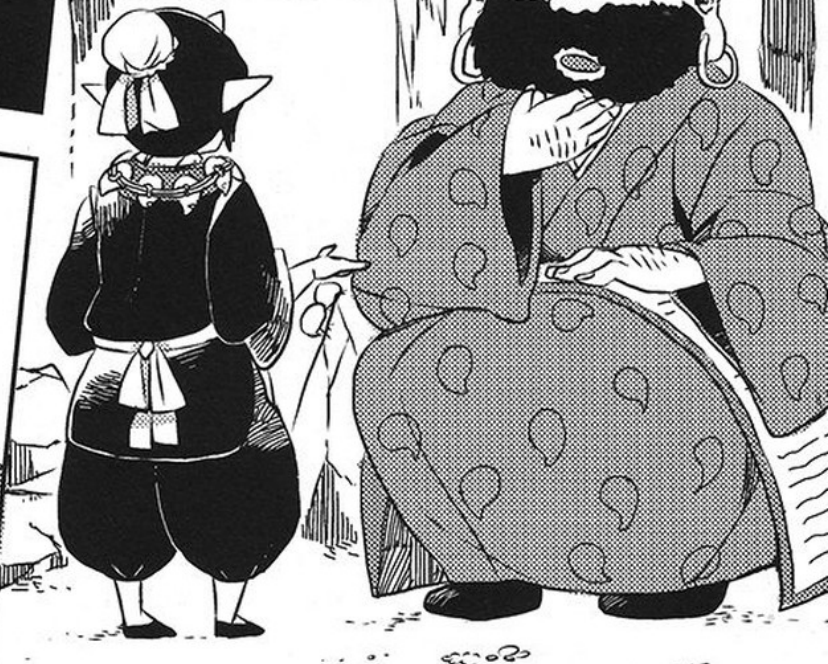
毛皮は
柔らかくて
暖かくて

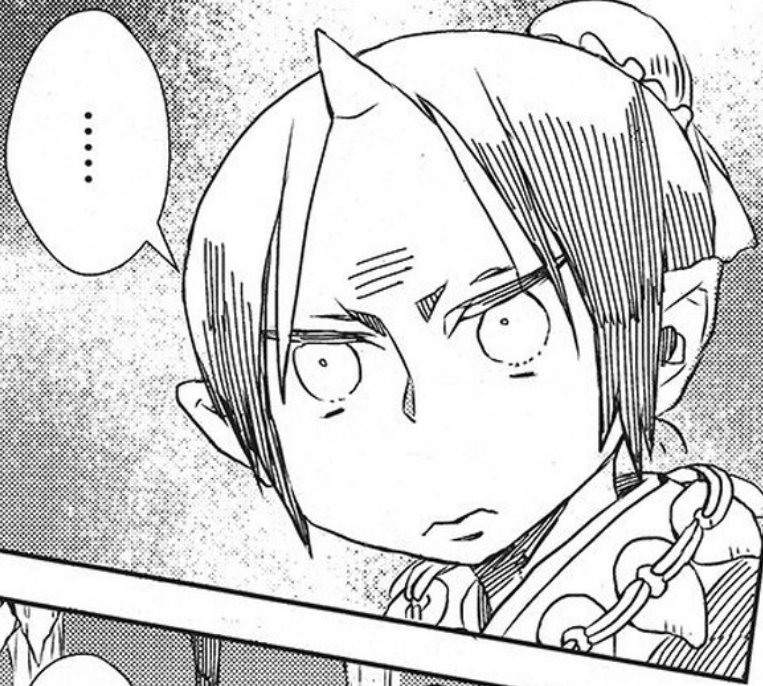
あれは…

あれはむしろ

私がつつことので
きなかつたもので
できている



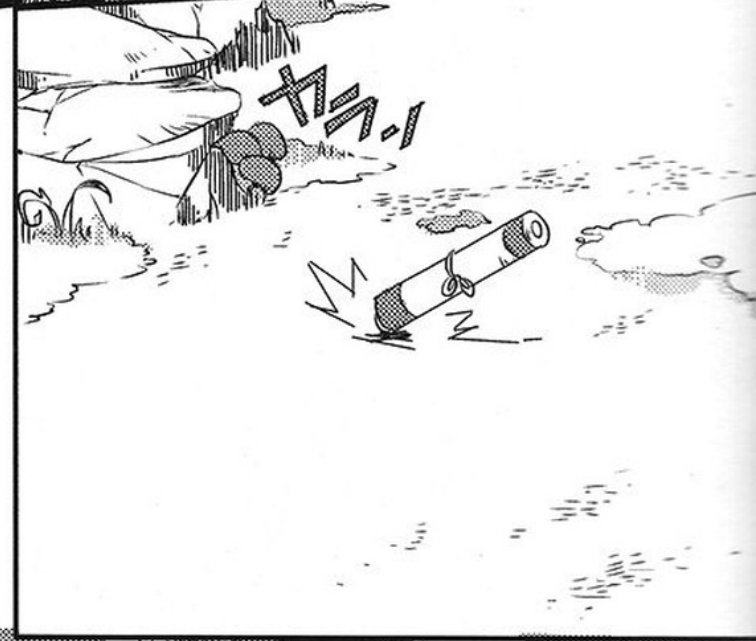
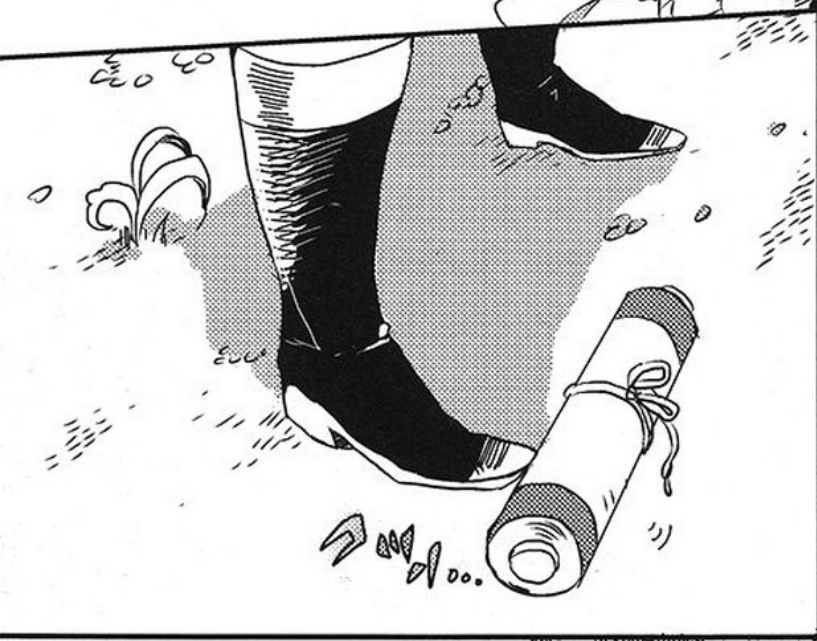
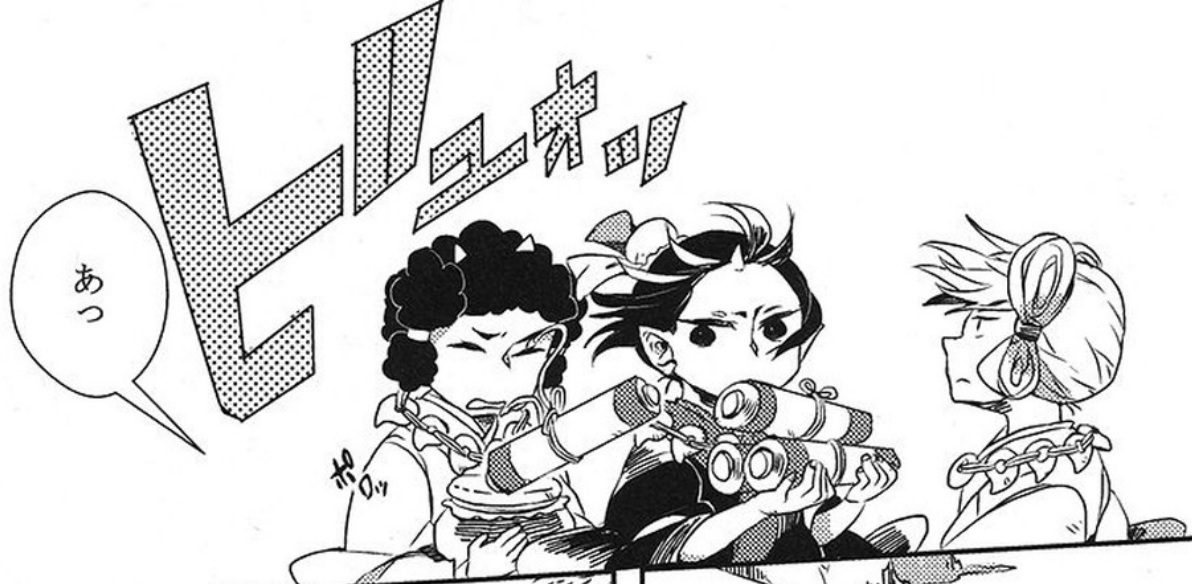




初次見面
はじめまして
僕は白澤









どこかで
会ったっけ?

あれ?

神獣様
今日はどんな
御用ですか?

僕のこと
知ってるの?



いたっ!

ヒッ



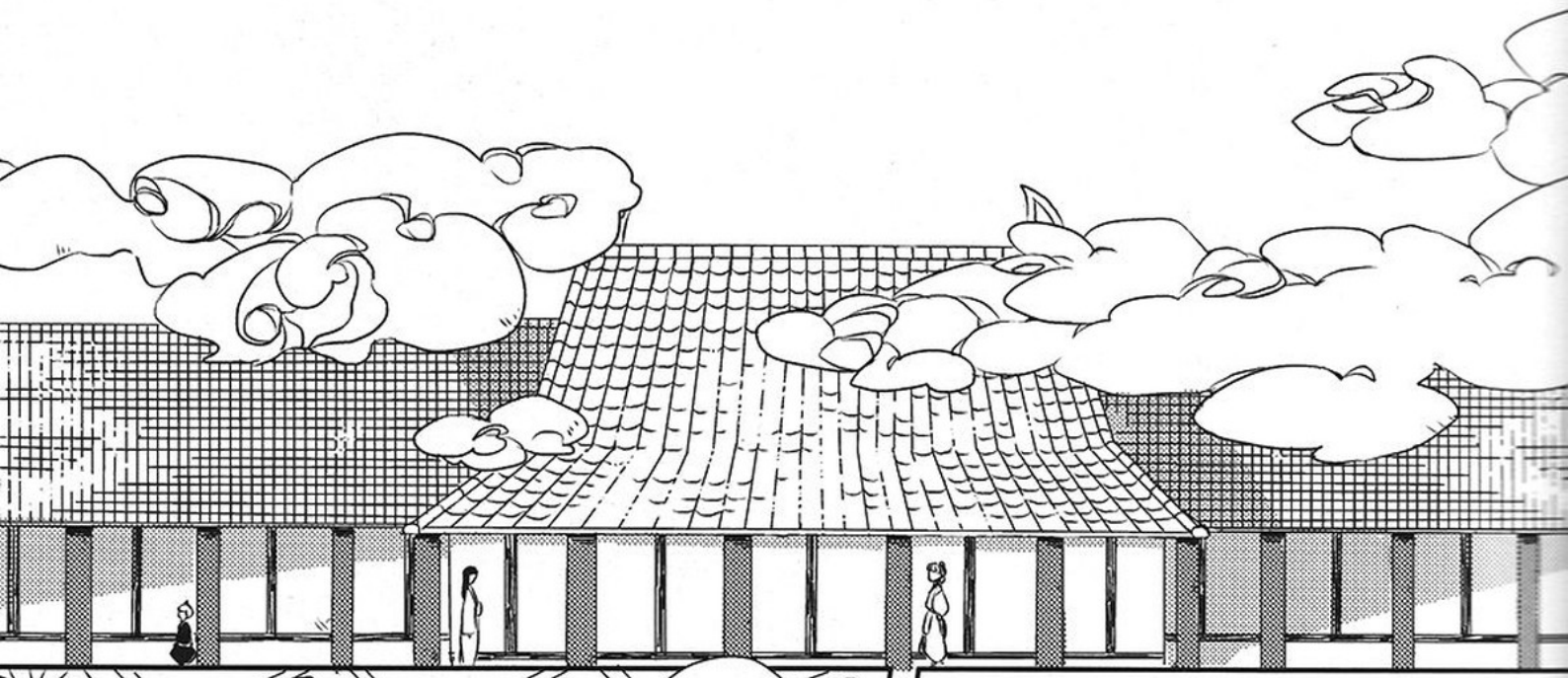
あの方は
知識の神だと
聞きましたか?

何かの
間違いじゃ
ないですか?

うしろん
白澤君は基本
男はいるって
ないから
認識でしか

何回も会っ
根気よく
話さないと
なかなかに
覚えて
くれないん
だよ

ワシも最初は
そうだった

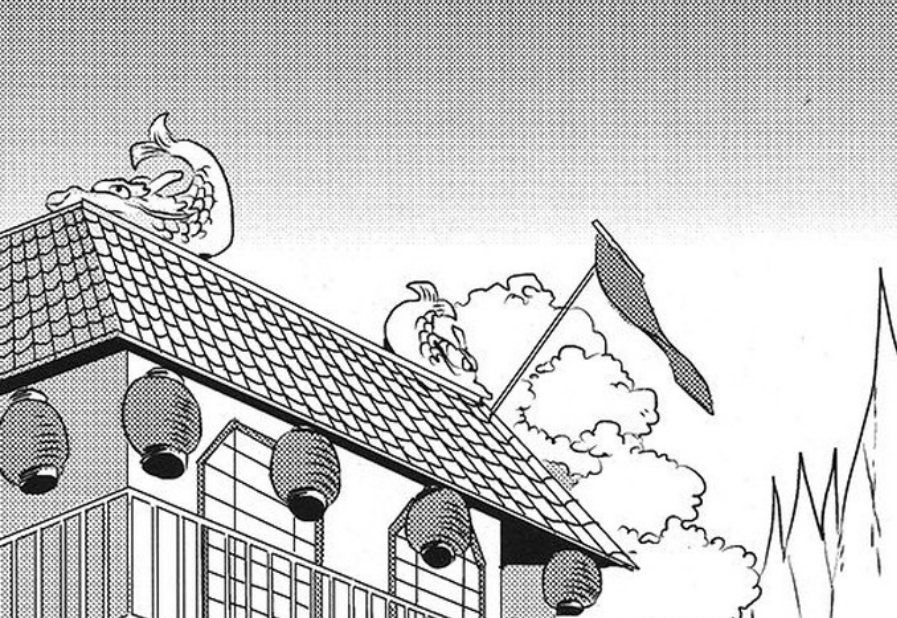


ちよつと
衆合地獄に
応援に行つて
もらいたいん
だけど

どうかしたん
ですか？



鬼灯君！



まだ
出来たばかりで
ゴタゴタしててね
人手が足りなくて
大変なんだよ



よく
似合ってるわ！

首の包帯は
喉仏隠しと声
が出ないって
設定ね



...



ごめん
誘惑ん
の本
よ当
に係



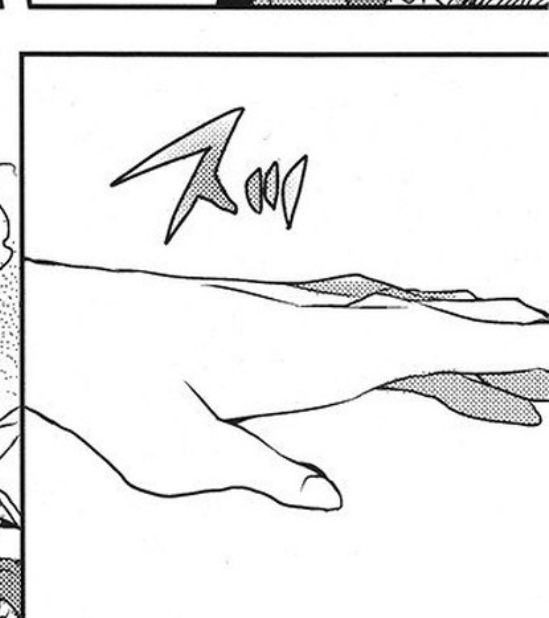
天国の
桃の
香り



男を惑わす
香りよ



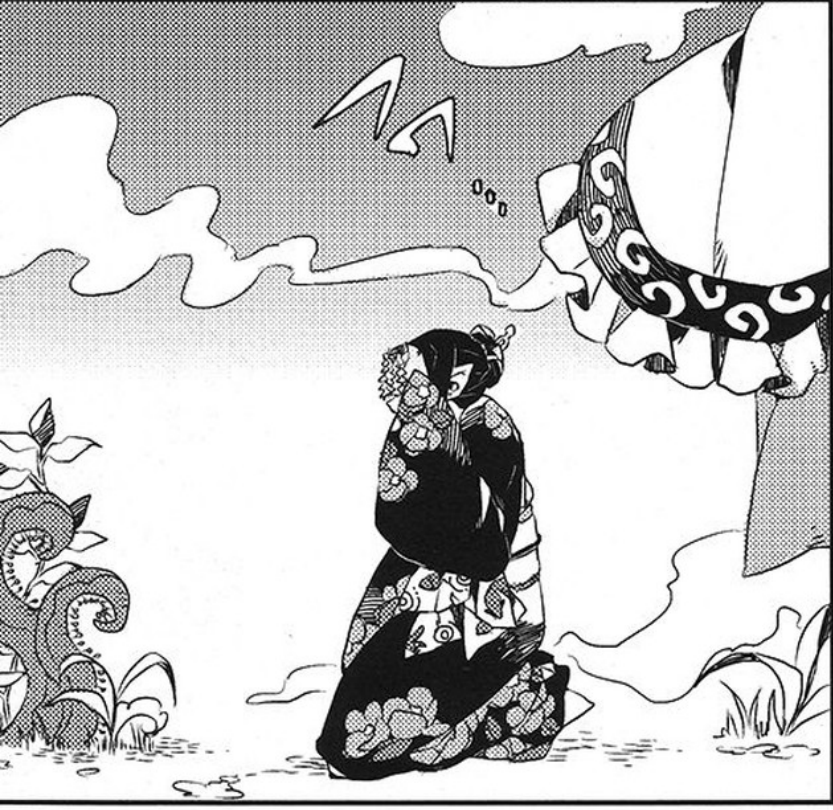
匂い袋ですか？
なにか甘い
匂いがしますね





美女が集まる
地獄が出来たら
ついでにうから
来てみれば

これは過労だね
後は僕が運ぶよ
美人のお嬢さん



君も
無理するんじや
ないよ

!



白澤様!

あまい……桃の香りがする



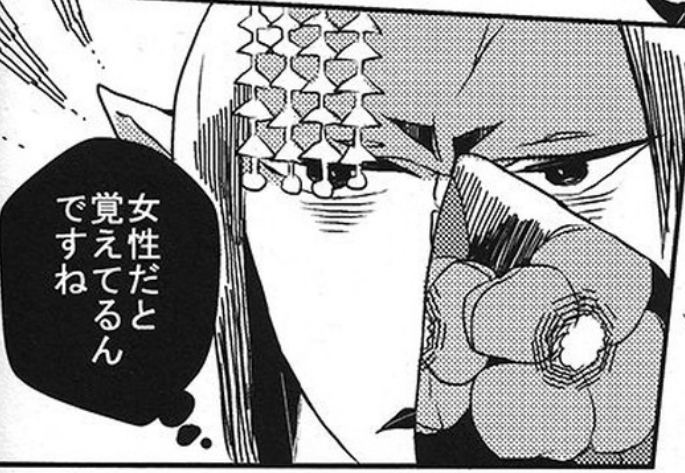




君はこの間
会った子だね？



あれ？



女性だと
覚えてるん
です



この間
倒れた子の
様子を
だけ見た
に
来た



君しゃべれない
んだよね

ああ
怪しい者じゃ
ないよ



君は顔色
よいか
みただね



ぼれたか？



ん？



うっわ
汚物を
見る目だ！

でもそんな
クールな君も
素敵だよ！



しっかし
君美人だねえ
僕と遊ばない？



苦いお薬飲めた
えらい子に
あげてるんだ



はいっ
疲れた時には
甘いものは



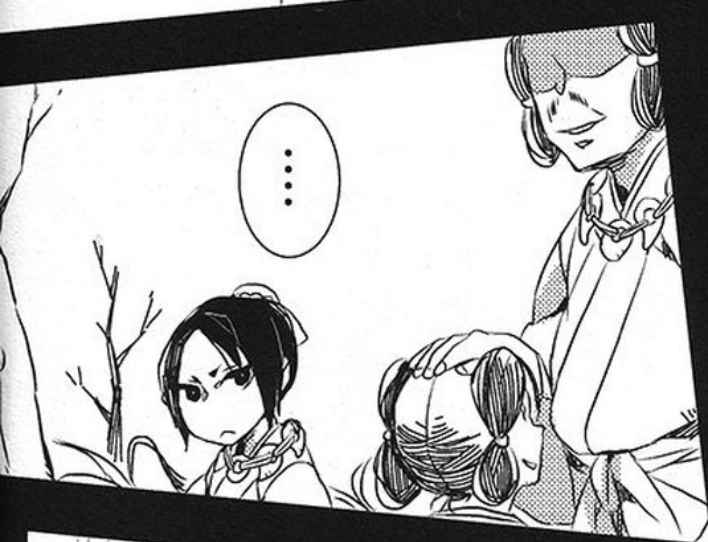
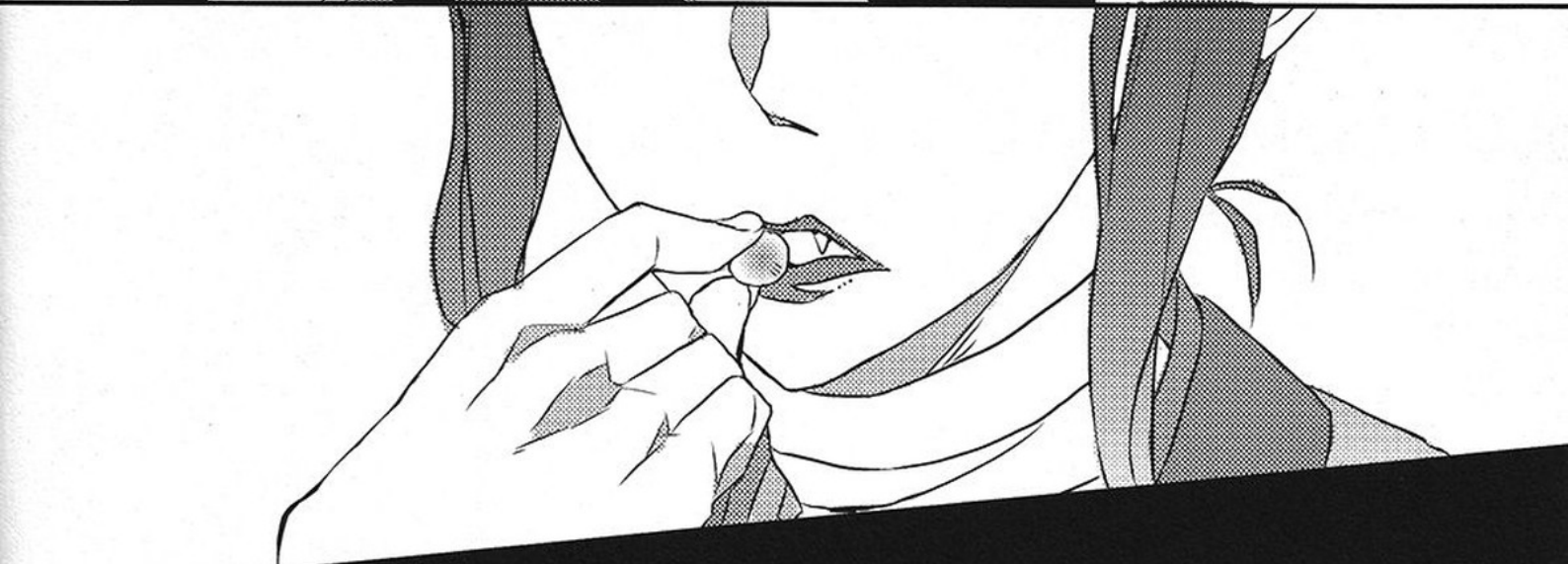
そうだ

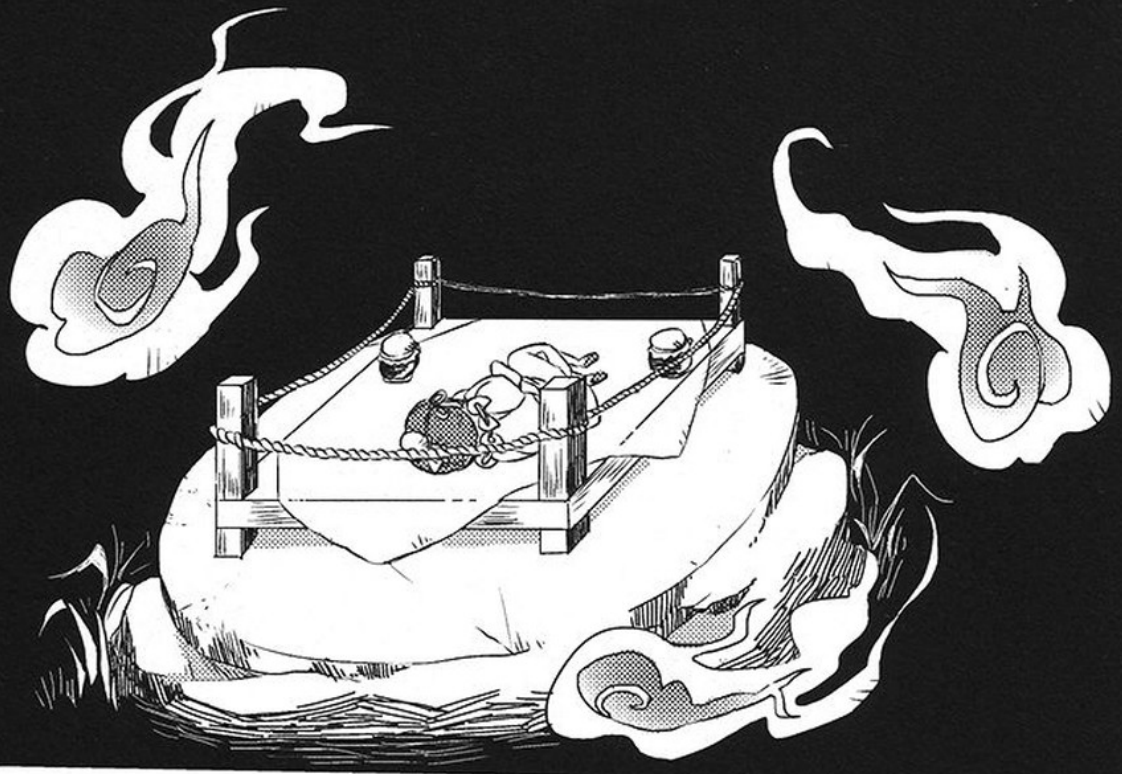


ごめんごめん
僕からしたら
皆子供だから



あつ！今
子ども扱って
思いたいでって





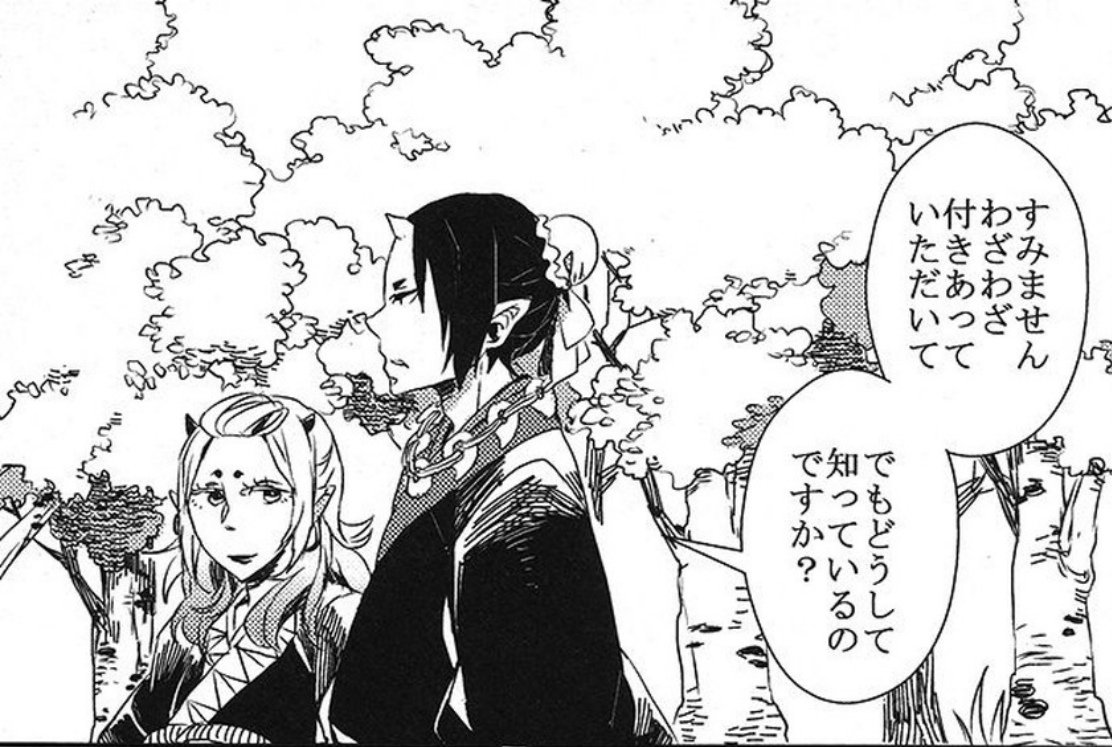
あまいもので
この身を
満たしたら

それはきつと
しあわせな

薬の勉強を
始めたんで
すってん？

はい
この本に
載っている
薬草が
欲しいのですが

あら
これなら
見た事ある



すみません
わざわざ
付きあって
いただきて

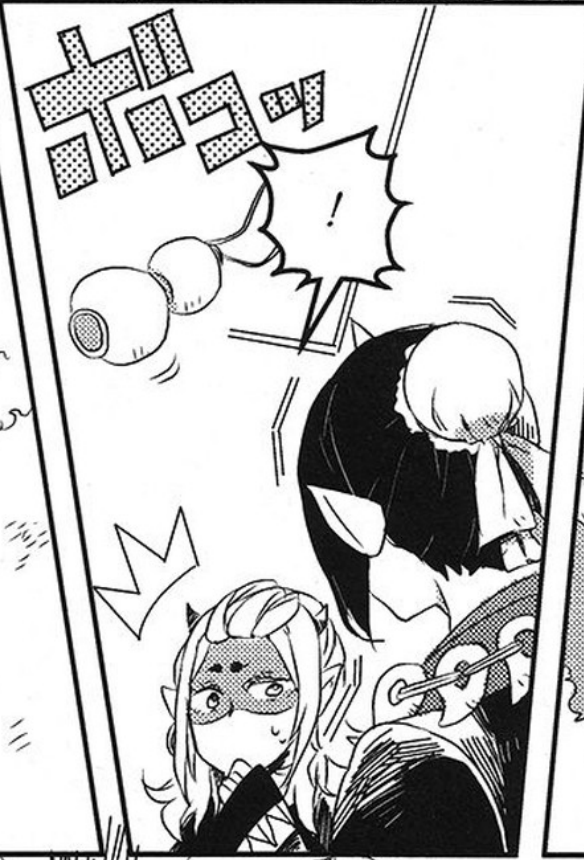
でもどうして
知っているの
ですか？



こっちよ



大丈夫？



ゴッゴッ



前
にある方に
教えてもら
ったの



ごめん





あの：：の間教えて
 いただいた場所の
 生えたいでした
 この辺りでは
 よね



お久しぶり
 です
 白澤様

...



こんな所で
 どうしたの？
 わかったの？
 僕に会いに
 来たんでしょ！



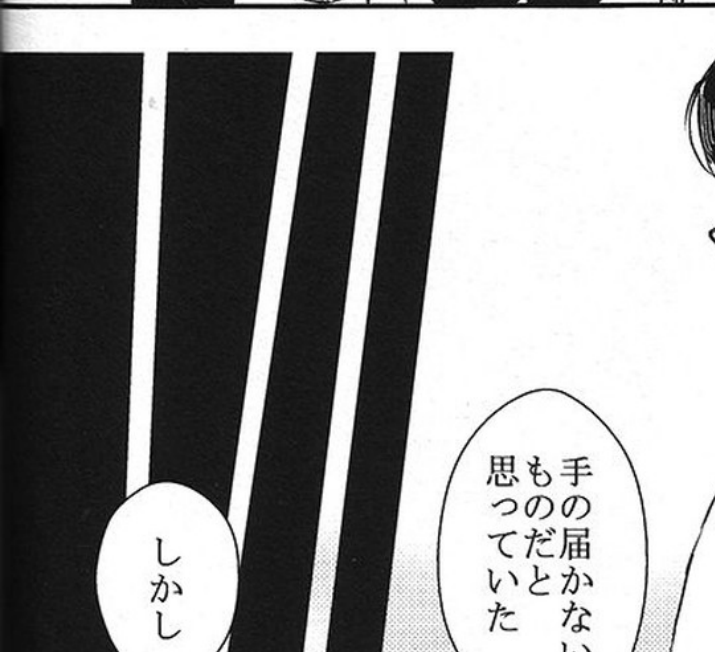
つて
 お香ちゃん！



こっち
 こっち



あああれね
 案内して
 あげるよー



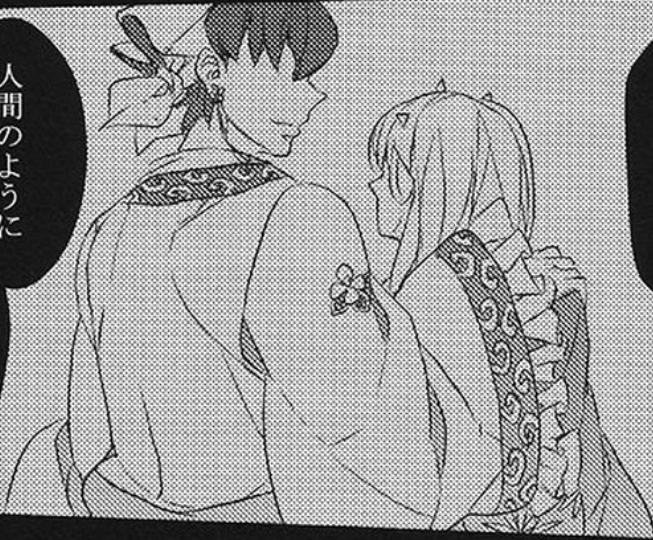
幼い頃は
 この男はもつと
 神聖な存在で

手の届かない
 ものだと
 思っていた

しかし



そんな
きれいなもの
ではない



神獣とは
とても思えない

人間の
ように

ひどく
汚れている



衆合地獄で
見た亡者と

何が違う？

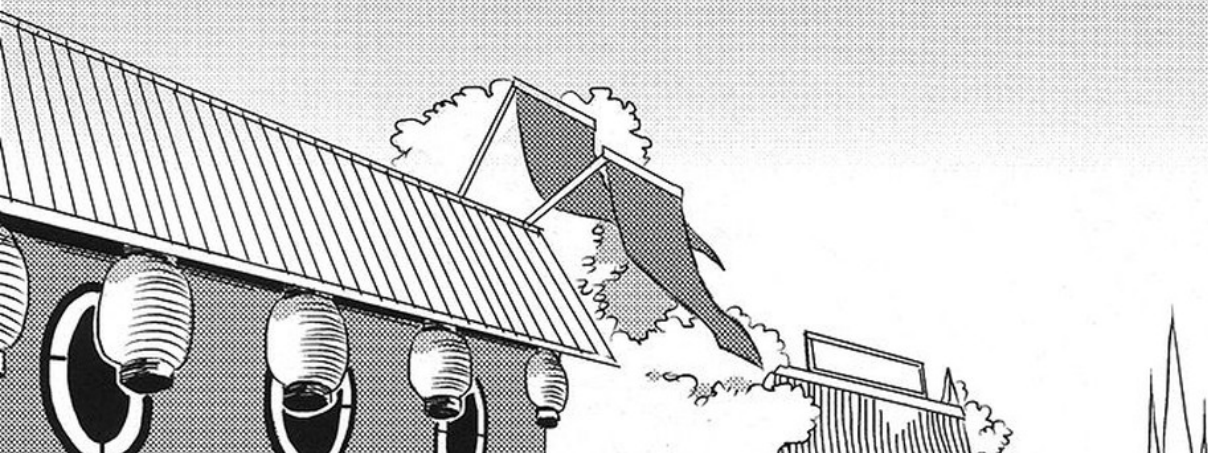
だが

そうで
あるのなら





手が届くのではないか





ソイヤッ!

うおおおお!



私はいつも
貴方に対しては
本気です

そんな本気は
いらねえよ!

おい毎回何の
ためらいもなく
本気でフルスイン
グするのやめろ!

チッ



そっちが毎回
私の視覚に入って
来るんでしようが

しろい加

なんか
ここにくると
高確率で
お前と遭遇
するんだけど

なんなの?
センサの
ついてんの

なんだその
口を開く
ことすら
嫌って顔は

...

女のこの
いる場所が
僕の場所
の場所

女遊びも
大概にしない
大か痛い目
あいつますよ

忠告は
しましたからね

大きな
お世話だよ！

あーあ
興を削がれ
ちやつたなあ
今日は帰ろ



前御狐心

姐己ちゃん！
遊びにきたよ！

あら白澤様
いらっしやい

急に呼び出して
ごめんなさいね
今日新しい子が
入ったんだ

もう
すごい美人で
ぜひ白澤様に
紹介したいと
思ってます

えほん
それ楽し
み？







なにこれ
うれい
それ
？



てつきり
肌を合わせる
事にしか興味が
無いものだと
思っていました

おや？



まだ君の顔も
見てないし
声も聞いてないん
だけども……



とうとうか
……どうい
つもり？



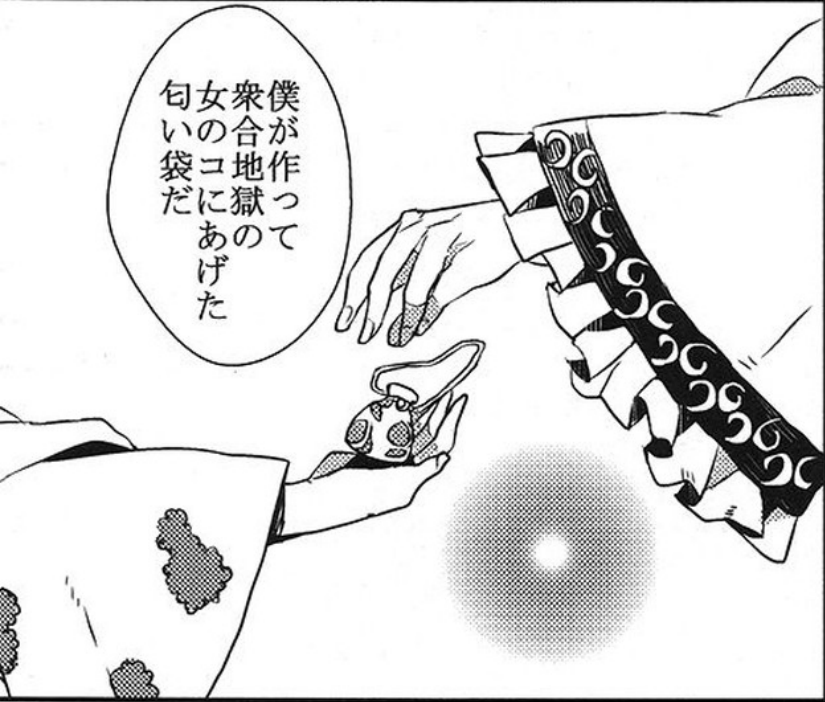
そういうのも
全部含めて
楽しんでるん
だよ僕は


僕男を相手に
するつもり
ないんだけど



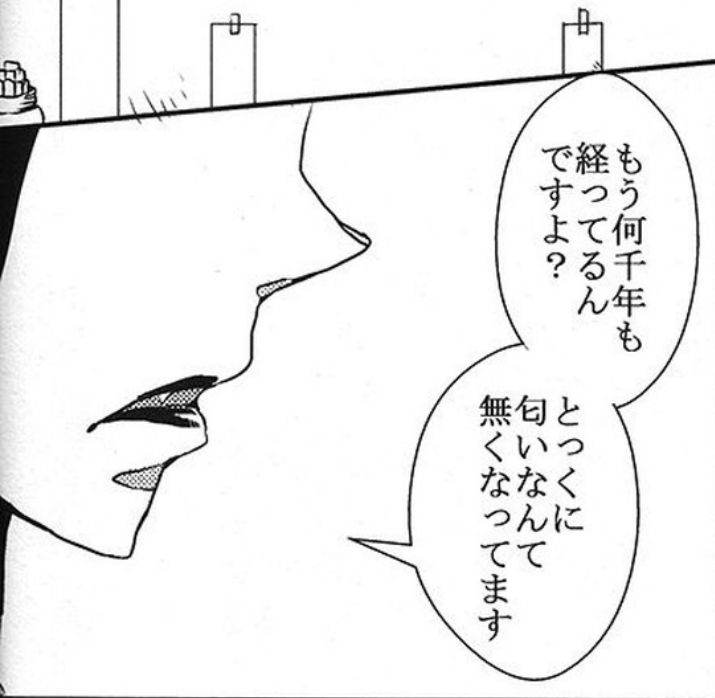
よく言う

女も
相手に
くせに
ない





あれは育てた
僕が特別な
桃の匂い
だから桃の
源郷にいる
しよつちゅう
お前の仏頂面
頭にチラする
イヤイヤするよ




もう何千年も
経ってるん
ですよ？

とつくに
匂いなんて
無くなつて
ます




...



んむうっ


人の記憶に
一番最後まで
残るのは匂い
だというが

この人のよう
は神にも当て
はまるのか



ずっと
私と事を
想つてた
んですか？

えっでも
...



えっ!!
おいっ!!



はあっ



今は貴方の方が
女の様ですよ



労働なんて
したことの無い
筋肉の薄い
細い足首とか

どこがだよ
っておい





...ないきなりコレは...ないんじや...ない?



阿ッ!



貴方が敷かれるのに...抵抗があるつて...言っただんじや...ないですか



こういう形を望んだんじやねーよ!



あまりにも
じれったかった
もので

おまっ…
いきなりっ



安心しろよ

おっ
これは…

経験豊富
なんで
しょう？

こっちが
豊富で
たまるか！



僕の内側まで
入ってきた奴は
お前だけだよ

ほーずき





貴方が…
どうしようもない
最低なクズで
よかった

だから…
手が届いた

ああっ!



天国の
桃の香り

きっと亡者には
貴方が天国の
天女に見えるわ



誘われて
桃の香りに

はたしてどちらが
亡者だったのか

前回の本が白澤よりだったので今回は鬼灯よりのお話にしました。
色々とおねつ造が多めです。そして女装攻めです。楽しかったです。←

私は執着心が強くて重くてドロっとしてて拗らせてる鬼灯と
天然にひどい白澤が大好きです。

もちろんそれ以外も好きです。鬼白ならなんでも好きです。
色んなパターンに挑戦していきたいな！！

平成二十六年八月二十四日
インディゴブルー:海七(pixiv:4980123)
mail:tpsxn383@yahoo.co.jp
印刷:しまや出版

*無断転載、複写、オークションへの出品などは
おやめください。

*非公式の二次創作です。実在の団体、企業、著作権元とは
一切関係ありません。



平成二十六年八月二十四日
鬼灯の冷徹
非公式ファンブック
鬼灯×白澤



Scanned
BY
EBIL_TRIO

<http://ebil-trio.livejournal.com/>

credit page art by pixiv ID 3748489

